

第13回太田川河川整備懇談会 議事要旨

- 平成30年7月豪雨、令和元年台風19号など、気候変動の影響による近年頻発化・激甚化する降雨状況を鑑み、太田川水系において事前防災対策の加速化が必要である。
- 太田川本川ならびに各支川の新たな整備目標は、気候変動を踏まえた流量および確率規模による多面的な検討が確認されており、妥当である。
- 支川の河川整備における河道掘削にあたっては、単断面水路にならない様、洪水時に河川水位に応じた生物の逃げ場に配慮が必要である。
- 次回提示する最適案においては、環境への影響及び流域への効果を十分検討するものとする。
- 雨水貯留施設等の流域対策も関係機関と連携して引き続き取り組む必要がある。
- ICT及び最新の技術を活用しつつ太田川全体の防災減災に寄与する取り組みが重要である。